



明治15年加賀田神社本殿修理記念に描かれた
楠木正成の絵馬の制作の背景が明らかに

1 概要

当該絵馬の存在は以前から知られていたが、平成27年度から平成29年度にかけて行った加賀田神社本殿彩色修理によって、明治15年に行われた修復工事の竣工を記念して制作されたものであることがわかった。

この絵馬は、楠木正成親子の桜井の別れの場面の背景に観心寺金堂・中院・三重塔と思われる建物が描かれている。楠木正成を描いた絵馬は多いが、本市の建築物を背景に描いているものは全国的にも珍しい。楠木正成は大江時親に軍学兵法を学び、その邸跡が加賀田にある。このようなことから、加賀田の人々の楠木正成に対する思い入れは強く、地元で昔から愛されてきたことを示す貴重な資料である。

2 絵馬の内容

- ・画題 楠木正成正行親子の桜井の別れ
- ・奉納年 明治15年（1882年）7月
- ・奉納者 当郷氏子中
- ・構成 板絵、黄土下地に極彩色、木製墨塗り額装
- ・法量 横1900mm 縦1180mm
- ・画 陣幕を背に座る武将の鎧に菊水紋があることから、楠木正成が描かれていることがわかる。正成の前に跪く武将は正成の子正行である。画面向かって右上辺り、金雲の間に観心寺金堂・中院・三重塔を描き、「正行よ、故郷の河内へ帰れ」と諭す、桜井の駅の別れの場面を描いている。

・奉納の趣旨

加賀田神社（明治15年当時の呼称は加賀崎神社）は明治15年6月に本殿の屋根葺替えと彩色修理が竣工した。本絵馬は翌7月に竣工記念として奉納されたと考えられる。

・絵馬の作者

絵馬作者の署名は無いが、下記の類似点から本殿彩色を手掛けた絵師大西安太郎が制作したと推測される。

- ①絵馬の松樹や流水などの描き方が本殿彩色と類似している。
- ②楠木正成の顔と本殿東面脇障子に描かれた隨身像の顔の描き方の特徴が似ている。
- ③絵馬で使用された絵具は本殿彩色と同じ種類で、黄土下地にウルトラマリンブルー、花緑青、べろあい（プルシアンブルー）、朱、ベンガラが使用されている。
- ④本殿壁画と絵馬はともに、落款を彩色で描いている。

明治五十歲七午月



高野
氏中